

羊ヶ丘養護園安全委員会だより

羊ヶ丘養護園 VOL.52 令和4年9月30日 発行者 松本

第61回安全委員会が9月21日に開催されました。

今年度3回目の安全委員会を開催させて頂きました。報告ケースは令和4年7月1日から令和4年8月31日までの全5ケースでした。例年トラブルが増える夏休みを挟んでのご報告であった為、我々職員もハラハラしていたものの、子ども達の頑張りもあって思いのほか暴力は低空飛行で終わったことは一定の評価が出来る所であります。今年の夏は久しぶりにキャンプや遊園地などへお出掛けできたこともあり、子ども達にとっては充実した夏休みであった事も功を奏したように思います。よって今回の安全委員会はケースの審議よりも、子ども達への関わり方や機関連携に関する確認で活発な議論がなされた会議となりました。



GOOD! 今回の報告では、小学生の暴力を全力で止めてくれた高校生や、被害職員と出かけた釣りプログラムを通して思い直し、自ら謝罪に向かえた子のエピソードも紹介されました。また、暴言や暴力で度々トラブルになっていたはばたきユニットや年少児を幼稚園バス内で脅した地域小規模児童養護施設白樺の幼児さんの指導後の経過と、現在は他児に対し優しいところも見え、順調に生活している様子についても共有されました。

今回報告分の暴力内容

- 小3・コンクリートに死ねと書いた
- 高1・職員を蹴った
- 高3・職員にスマートフォンを投げつけた
- 小2・陰部に玩具を当てて遊び、そこに他児を誘った
- 小6・首を押さえ、お腹を3回殴った

安全委員会方式について外部委員からの質問と当園の回答

質問：報告事例を見ると、本来安全委員会が取り扱うレベル以外の報告がなされる事があるがその理由は何か。

回答：安全委員会への報告義務を持つ暴力は本来殴打系、苦行強制系、性暴力等であり、今回の報告ケースの様に地面に悪口を書いた程度のもは取り扱わないのがセオリーではあるが、暴力未満のトラブルに関しても安全委員会方式の指導が有効と考えているユニット、職員がいる事。また、暴力未満であるうちに、外部の先生方とも情報を共有し、その後の暴力に発展しないように施設の内外において一緒に見守って頂きたいという当園の思いがある。特に女子ユニットで見られる暴力は比較的ユニット内の児童の関係性から発展することが多い為、きめ細やかにケアをしていく必要性を感じている為、あえてご報告するケースもあります。また、同様に男子側においても性暴力の問題に関して未然に対応していきたいという考えから、今後もこの場を借りてご相談させて頂きたいと考えている。

質問：謝罪の在り方についてどのように考えているか（心からの反省を促していくことについて）

回答：本来はそのレベルでの振り返りと謝罪を求めたい所ではあるが、当該児童の能力や発達障がい等の有無によっては必ずしも全児童が納得して暴力の謝罪をしているわけでは無く、「悪い事をしたから謝るんだよ」と幼子に教える様に形から入ることもあり、状況に応じて様々な方法を織り交ぜながら対応している実態がある。また、施設は生活の場であることから（二次被害予防の為）早期解決を優先する事もあります。

その他のご意見：暴力対応記録に関して、もう少し児童の謝罪時の態度、様子が分かる記載があると良いのではとのご意見がありましたので、早急に改善していきたいと思っております。

審議と頂いたご助言

今回、児童相談所の先生より、「～しない」ではなく「こうしたらいいよ」と伝える事や、小学校の校長先生からは、学校での実践例からトラブル発生時においては、その話し合いの目的を初めに明確にすることで、途中児童が感情的になり横道にそれても軌道修正し、解決に向かうことが出来る事のご助言を頂きました。施設職員も経験上、「あいつもやっている」「じゃあこの事は良いのか」等と児童から別的话题を持ち出され、指導に戸惑うこともあります。上記の様に改めて基本に沿って取り組む事の意味と価値について今回学ばせて頂きました。

今回初めて定例安全委員会に陪席させていただき、「どこまでが暴力なのか」について考えさせられました。また、小さな暴力でも、会議で共有し相談していくことで、子ども達の安心・安全な生活に繋がっていくのだと思いました。

暴力を起こしてしまった児童が、その後起こさないようにしていることや、日々頑張っていて取り組んでいることにも目を向け、褒めてあげたいと思いました。

保育士 森田 遥菜